

フラワーネット活動によせて

植栽委員長 伊藤 和人

私はお寿司が好きです。誕生日など名目をみつけては有楽町線に乗って築地や銀座へ出かけて行き、カウンターに陣取ってつまみ→小料理→にぎり、のスタイルを楽しみます。板前さんや家族との会話が楽しければお酒の味も格別の、幸せな時間となります。

アメリカ駐在時代は都市圏でなかったこともあって、こうしたお寿司の楽しみ方はいえない話でした。仕方がないので自作をします。日本食料品店で買える限られた冷凍ネタ、スーパーで買う保存ネタ、日本から持ち込んだ珍味ネタなどを使って自分で寿司をにぎるのです。自分専用の道具をそろえ、一時帰国の折に寿司教室へ行ったりもしました。現地ならではの素材を使った創作ネタもいろいろと試みました。

やってみてわかったことは、寿司づくりというものは、食べる側にはわからない、大変な手間と技術が必要だということです。魚をおろして適切な形に切り出す過程は魚の種類によってすべて違います。一口サイズに格好よく握るテクニックはネタによってすべて違います。友人を呼んで寿司パーティーをしようと思ったら、数週間前から計画的にネタをそろえ当日は朝早くから台所に立ちっ放しでした。寿司屋の食事の値が張るのも、自分でやってみて納得しました。

さて、暖かい季節になり若葉が一斉に芽吹いて、いまシーアイハイツは緑でいっぱいです。その足元で、小さな草花が咲き競っているのにお気づきでしょうか。花壇の草花はフラワーネットの活動の成果です。

シーアイハイツ和光には現在 18 のフラワーネットグループがあり、総勢 59 名が 25 箇所の花壇で花を植え、毎日の世話をしてくださっています。

植栽委員会はプロの植栽管理業者さん（東京グリーンサービス＝TGS）と契約して高木や中低木の伐採、剪定、刈り込み、除虫、防疫などを計画的に実施していただいています。草花は小さいので、毎日の水やり、手入れが欠かせないからです。フラワーネットは手分けをして、ひとつひとつの花にきめ細かな手当てしてくださっています。その苦労は花を見るだけの立場にはわからない、実際にやっている方でないとわからないのではないかと、寿司づくりの経験から思いめぐらすわけです。

ゆたかな緑はシーアイの財産だと、よく言われますが、25箇所もの花壇がボランティア活動によって維持されていることもまた、ひとつの財産ではないでしょうか。団地を訪れるお客様、入居を決めるために見学に来る方々が、ていねいに維持された花壇を見て好感を持たないはずがありません。

植栽管理は地道な努力を長期的に続けていくことによって成果を得ます。プロの業者が専門的な見地に立ってスケールの大きな仕事を展開する一方で、大きな手の及ばない部分で、住んでいる人たちの小さな手が、自分たちの意思で景観維持を続けているというのは、お金に替えられない素晴らしい文化的財産だと思います。

フラワーネットに声援を送りましょう。その活動が今後も息長く続き、さらなる拡大発展をとげてくれることを期待します。若年層や男性のグループも生まれるといいですね。